

技術提案書3 (課題についての提案) 課題1 新文化複合施設(図書館・市民ギャラリー) 整備事業基本構想(案)に基づき、及び駐車場を配置する観点から、この施設における機能的かつ快適な空間の実現と稼働率を高める具体的な方策について、提案者が独自に提案したい事項

本の宇宙をつくる ＝図書館の本領を発揮する大量の本に囲まれた空間

基本構想に示された新複合施設の実現するためには、まず図書館の本領が発揮されなければならない。その魅力を求めて大勢の市民が集まり、そこに様々な出会いや興味が生まれる。そのことにより、より多くの市民がそこに集まり、ステップアップしていく。このような好循環を確実に作りあげることにより、街づくりの一翼を担う図書館が誕生する。では、図書館の本領とはなにか。

20万冊を越えるワンフロア型開架スペースは、強い求心力を持つ。東京23区を横断して市川市までやってくる利用者まで現れ、隣接する商業施設の売り上げは20%以上増加した。
(小川俊彦氏・元市川市立中央図書館長)

開架冊数が35万冊を超えると利用者図書館の関係が変わる。図書館に行けば、ほとんどの課題が解決できると考えるようになる。
(常世田良氏・元浦安図書館長)

これは、日本を代表する図書館の運営に関わった2氏の言葉である。この言葉に示されているように、図書館の本領とは、まずより多くの本・資料がそこにあるということである。そして自発的に学べる環境と、図書館司書のサポートを十分受ける環境が整備されることにより、常に市民の知的欲求や課題解決をサポートできる図書館とすることが出来る。

今回提案では、まず図書館を2階に配置することで、可能な限り大きなワンフロアを確保し、街の喧騒から離れた落ち着いた環境を獲得したいと考えた。

そして、閉架書庫の一部を開架フロアの上部空間に開放することで、合計20万冊の本に包まれた本の小宇宙を作り上げた。さらに、隣接する書庫を公開書庫とすれば、35万冊を越える本を直接手に取れる環境が実現できる。このような特性を持つ図書館空間を下敷きとし、そこに新しい時代の市民のための滞在型図書館を、そして様々な課題解決をサポートできる図書館を実現するため、細やかな工夫を盛り込んだ計画を提案する。



図3-11 図書館の本領を発揮する大量の本に囲まれた空間

ポイント1 課題解決を支援する図書館として

【職員と利用者の距離を近づける工夫】
心理的バリアの小さい独立型のレファレンスデスクの設置や、職員と利用者が気軽にコミュニケーションできる出先スポットになるサテライトデスク(SD)の配置など、様々なタイプのデスクを散在させ、職員から利用者への人的支援サービスの充実に配慮する。

【書架のそばに席を配置】
閲覧席を書架内に分散して配置し、資料と閲覧席の関係を近づける配慮をする。
【ガラスの閲覧室】
ガラスで仕切られた閲覧室を開架スペースに配置し、パソコン利用や多人数学習等、音の発生を許容できる環境をつくる。

【ハイブリッド図書館】
IT技術の進展に伴い、現代の図書館では、複数のメディアの大量の情報から必要な知識を選び出すレファレンスセンターとしての役割が重要となる。中心部にインターネットコーナーやデジタル資料コーナーを集約し、本とインターネット、デジタル資料を組み合わせ利用できる環境を整備する。

ポイント2 子どもや子育て世代のためのデザイン

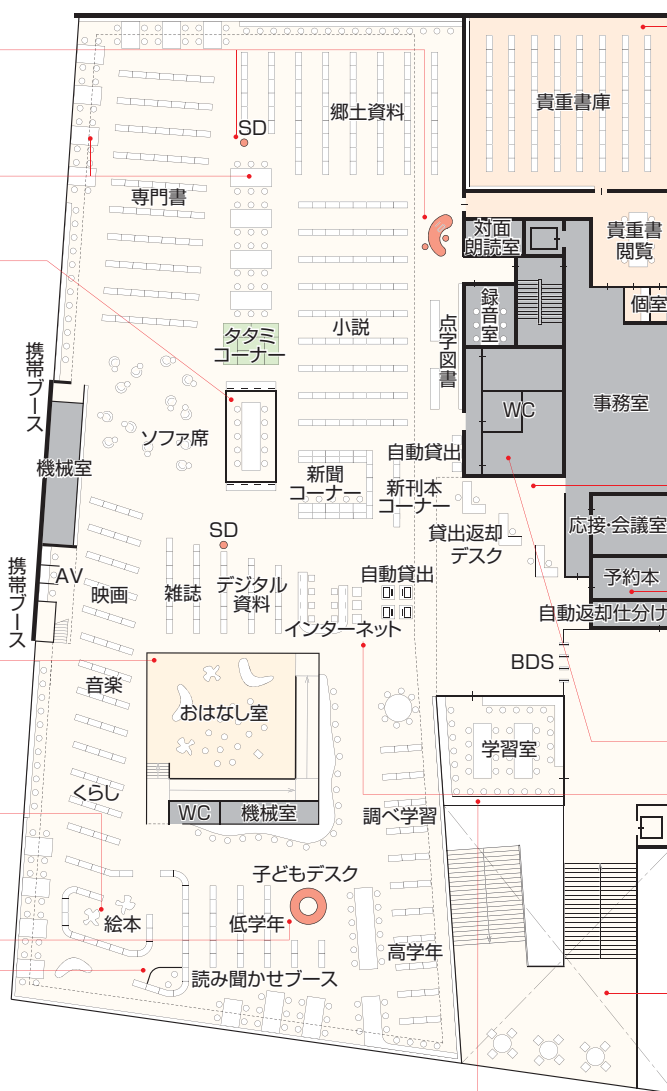
【おはなし室】
こども図書室の中心に配置。フロアレベルを上げることでこどもの活動が周りから見えない構成。

【表紙でこどもと絵本をつなぐ】
絵本の表紙は、こどもと本をつなぐ重要な意味を持っている。昔のレコード店のような表紙を見て選べる書架や表紙ディスプレイなど、表紙を見せるデザインの工夫により絵本ギャラリーのような楽しい空間を創出する。

【こどもデスク】
乳幼児・低学年・高学年各ゾーンから使いやすい位置に配置。
【読み聞かせブース】
周りに気兼ねなく読み聞かせができる簡易なブースを設置。

【ニーズに合った緩やかなゾーニング】
こども図書室は、乳幼児・低学年・高学年のエリアを穏やかにゾーニング。高学年のエリアには調べ学習資料や学習室を隣接させ、また絵本コーナーのそばには親子連れで来館した母親のために、料理や暮らしの資料を配架するなど、利用ニーズに応じた肌理細やかな配慮を徹底する。

【単独利用もできる学習室】
図書館からも外部からも使える学習室。ガラススクリーンで仕切られ見通しが良いデザインとした。調べ学習の資料に隣接した位置に、1クラスの席数を持つ学習室とすることで、クラス単位の調べ学習にも対応する。



2F

ポイント3 米沢ならではの図書館

【貴重書庫】
米澤善本や、鷹山公御手沢本、興譲館本、林泉文庫など、米沢市立図書館のルーツに連なる約28,000点を越える古書籍・古文書や、約8,000点以上の寄贈・寄託文書などを保管。専用の閲覧席を設け、完全な温湿度管理のもと、研究者や郷土史家の活動を支援する。

ポイント4 効率的で専門性の高い図書館サービスのために

【自動化・セルフ化】
自動貸出機や自動返却・仕分機などの導入による業務の効率化を重要検討事項と考える。それらの装置を効果的に運用するためには、適切な位置に配置することが重要となる。

【貸出返却デスクの機能的な配置】
貸出返却デスクはBDS(無断持出防止装置)に隣接した位置に配置し、機器の誤動作にも迅速に対応できるデザインとした。また、独立式デスクの背後にはゆとりある作業スペースを確保し、事務室との連携にも配慮した機能的なデザインを追求する。

【セルフ式予約本コーナー】
インターネット予約に対応する業務の増加が、図書館の新しい課題になっている。新図書館もその開館に伴い、利用者数・インターネット予約の急増が予想される。セルフ式の予約本コーナーを設置することで、職員が高度な専門業務に専念できる環境を整備する。

ポイント5 全ての市民に身近な図書館

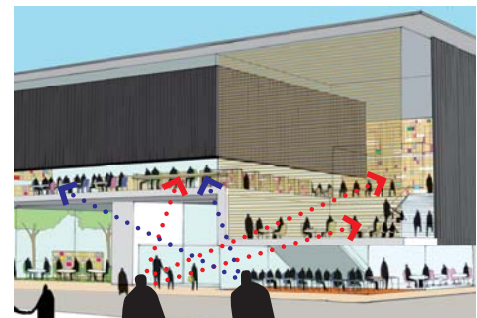
【様々なニーズに応える多様な閲覧席】
タタミ席、窓際席、書架に近い席、キャレル席、多人数席など多様なニーズに応える変化に富んだ閲覧席を用意。さらに、1人でも数人でも利用し易い回転式のソファ、テーブル付のソファ、キャスター付椅子など、椅子の選定にまで細やかな配慮を行う。

【防犯性の高いWC】
WCは見通しのよい開放的な位置に設け、防犯性に配慮する。

【高齢者にも安心のインターネット配置】
サービスデスク付近にインターネットやデジタル資料を配置。電子機器に馴染みの少ない高齢者が質問しやすく、職員が困っている利用者へ気づきやすい環境を整備する。

【携帯ブース】
図書館から直接外部へ出られないため、長く滞在する利用者用に、携帯電話が利用できるブースを設置する。

【近づきやすい図書館】
近づきやすい身近な図書館とするため、緩やかな勾配(蹴上150、踏面300)の大階段によるアプローチをデザイン。踊場は平和通りに面し、街から奥に広がる閲覧空間が何える構成とした。また、エレベーターはわかりやすい位置に配置しユニバーサルデザインに配慮した。



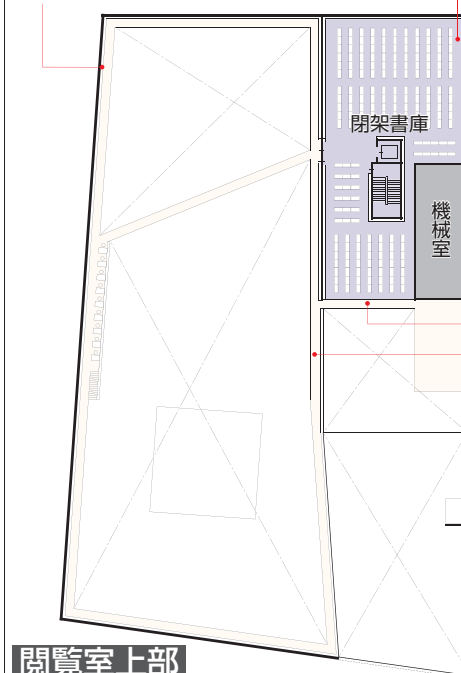
ポイント6 資料の能力を倍増する公開書庫

【本を見渡すブリッジ】
集密書庫と壁面書庫を結ぶブリッジからは、閲覧室全体を見渡すことができ、本の宇宙を遊泳している感覚を楽しむことができる。

【ガラスの書庫】
エントランス側の壁はガラスとし、書庫の存在を一般利用者にもアピールする。

【集密書庫】
集密書庫は積層書庫が導入できる天井高を確保し、将来の増冊に備える計画とする。一般利用者も公開書庫として利用できる配置計画とする。(一般利用は運用計画とすり合わせる)

【壁面書庫】
閲覧室の上部壁面は約5万冊の公開書庫として全面的に書架を設置し、本に囲まれた空間を創り出す。バルコニーを設置し一般利用者も利用できる計画とする。(一般利用は運用計画とすり合わせる)



閲覧室上部